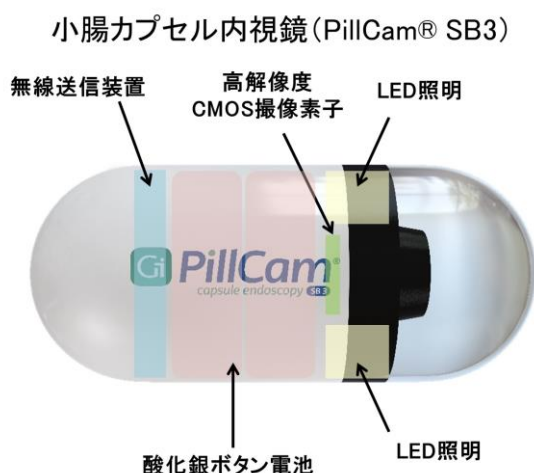


小腸カプセル内視鏡検査をお受けになる方へ

小腸用カプセル内視鏡の検査とは

小型カメラや照明を内蔵した大きめのビタミン剤サイズ（外径約 11mm、長さ約 26mm）のカプセルを飲み込むことで、小腸全体の撮影を行う患者さんにとって負担の少ない検査です。カプセルには腸内を照らす光源とバッテリー、カメラが内蔵されており、消化管の蠕動運動によって移動しながら 1 秒間に 2 枚、約 8 時間かけて合計約 6 万枚撮影します。撮影画像は、カプセル本体から無線で患者さんが身につけたアンテナに送信され、順次受信装置に蓄えられます。患者さんは、カプセルを飲み込んでから 1~2 時間後には病院を出て通常の生活に戻られます。撮影終了後、医師が受信装置から画像データを専用のコンピュータを用いて読影・診断します。



カプセル内視鏡検査の適応

保険診療で認められている適応は、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）や下部消化管内視鏡検査を受けても原因が分からない消化管出血（下血や黒色便）および小腸に病変がある（もしくは疑われる）場合です。

カプセル内視鏡検査の費用

カプセル内視鏡は使い捨てで再利用はできません。検査費用は検査・診断料が 17,000 円にカプセル内視鏡機器代約 8 万円の合計で、保険診療 3 割負担の方で約 3 万円の自己負担となります（2016 年現在）。

カプセル内視鏡検査に代わる検査

小腸病変を調べる手段として次のような方法があります。

- 1) CT 検査
- 2) MRI 検査
- 3) 小腸透視（バリウムを用いるレントゲン造影検査）
- 4) バルーン式小腸内視鏡検査

CT 検査と MRI 検査は小腸の外側の状態も把握できますが、小腸内腔の状態をみるのには適していません。このうち、小腸透視は小腸粘膜の状態を描出できますが、平坦な病変や色調の変化は分かりません。バルーン式小腸内視鏡検査はカプセル内視鏡と同様に小腸の内腔を直接観察でき、しかも必要に応じて同時に病理検査や止血術などの内視鏡治療ができるので大変有用ですが、口や肛門から内視鏡を挿入するので、多少苦痛を伴います。したがって、まず、楽なカプセル内視鏡検査を受けて頂き、必要ならバルーン式小腸内視鏡検査を受けて頂く場合が多いのです。

カプセル内視鏡検査の危険性

カプセル内視鏡検査の合併症は、カプセル内視鏡が消化管内で引っかかり体外に排出できなことです。カプセル内視鏡が何日も体内に停滞し、破損すると内蔵電池からの液漏れで腸穿孔など重大な合併症が起こることがあります。そのため、何日も停滞した場合は小腸内視鏡検査などを行って、回収に努めます。

カプセル内視鏡が通過できない狭窄の存在が想定される場合は、予めパテンシーカプセル®を服用して頂き、通過性を確認します。パテンシーカプセル®はカプセル内視鏡と同じ形・大きさで、狭窄部で停滞しても 100~200 時間以内に自然崩壊し、非溶解性のコーティング膜だけが自然排出されます。パテンシーカプセル®が変形なく無事排出されたことを確認後に、本番のカプセル内視鏡を服用して頂きます。

カプセル内視鏡検査の手順

<検査前>

- 検査の 8 時間以上前から食事や水分の摂取を中止して頂きます。普段お飲みの薬も原則的には一時的に中止して頂きますが、中止できない内服薬は少量の水で服用して下さい。

(注) 中止しない方がよい薬には、けいれんを止める薬、不整脈を止める薬、血液を固まりにくくする薬などがありますが、現在服用している薬を中止できるかどうかは、医師にお尋ね下さい。

<検査当日の朝>

- 1) 患者さんの身体に受信装置およびアンテナパッドを取り付けます。受信装置は衣服の上から腰に装着します。アンテナパッドは直接お腹に貼り付けます。
- 2) カプセル内視鏡の準備ができたなら、水とともにカプセル内視鏡を飲み込んで頂きます。
- 3) ビュワー（カプセル内視鏡から刻々と送られてくるカラー画像を見ることができる装置）で胃に到達したことを確認します。
- 4) カプセル内視鏡服用 30 分後にビュワーにて、カプセル内視鏡が十二指腸に到達していることを確認します。この時、カプセル内視鏡がまだ胃に停滞しているときは、胃からの排泄を促す薬を注射します。
- 5) カプセル内視鏡服用後 2 時間経てば水を飲んで頂いても結構です。絶食の指示がない方は 4 時間以上経てば軽食を食べて頂いても結構です。
- 6) 検査中に事務的な仕事や学校で授業を受けることは可能です。しかし、受信装置やアンテナパッドがはずれるような運動は控えて下さい。

(注) 検査中の注意事項

- 1) アンテナパッドは検査終了まではずせません。もしはずれたり、パッドを貼っている部位に異常を覚えた場合はご連絡下さい。
- 2) 強力な電磁波を出す機器、306～322MHzの周波数を出す機器は受信装置に影響があります。検査中はMRI検査を受けられません。また、キーレスエントリーデバイス、アマチュア無線機器は近づけないで下さい。
- 3) カプセル内視鏡は電波を出しているため検査中は飛行機に搭乗できません。

<検査終了：カプセル内視鏡投与約8時間後>

- 1) 患者さんから受信装置およびアンテナユニットを取り外します。これで検査は終了です。
- 2) 受信装置に記録された画像データは専用コンピュータを用いて読影・診断します。約6万枚にも達する画像の読影・診断作業は1時間以上かかるので、結果は後日お知らせすることになります。

<検査後の注意事項>

- 1) カプセル内視鏡服用後の排便は水洗便所を使用し、排便時に排泄されたことを確認して、回収して下さい。回収時の手袋や採便シートなどのセットをお渡しします。
- 2) 次回診察時に、担当医にカプセル内視鏡をお渡し下さい。これはカプセル内視鏡の排泄確認のためです。もし、カプセル内視鏡の排泄が確認できないときはお腹のレントゲン撮影を受けて頂き、カプセル内視鏡が体内に残っていないことを確認させて頂きます。

カプセル内視鏡が体内に滞留しやすい状況として次のような病態があります。これらに該当する場合はカプセル内視鏡検査を控える方がよいとされます。

- 1) 腸管に**狭窄**[きょうさく]（狭くなっていること）や**閉塞**[へいそく]（内腔が閉鎖している状態）がある場合
- 2) **憩室**[けいしつ]（腸管の一部がポケット状になっている病気）がある場合
- 3) **胃や腸のバイパス手術**を受けている場合
- 4) **お腹の手術やお腹に放射線をあてる治療**を受けたことがあり、消化管に**癒着**が生じている場合
- 5) **妊娠**などにより消化管が圧迫されている場合

何かご不明なこと、検査中に異常があればご連絡下さい。

平和会 吉田病院 消化器内視鏡・IBDセンター
電話 0742-45-9562